令和6年第3回八千代町議会定例会会議録（第2号）

令和6年9月19日（木曜日）午前9時00分開議

本日の出席議員

議長（9番）	上野 政男君	副議長（6番）	安田 忠司君
1番	赤荻 妙子君	2番	赤塚 千夏君
3番	榎本 哲朗君	4番	吉田 安夫君
5番	谷中 理矩君	7番	増田 光利君
8番	大里 岳史君	11番	大久保 武君
12番	水垣 正弘君	13番	宮本 直志君
14番	大久保敏夫君		

本日の欠席議員

10番 生井 和巳君

説明のため出席をしたる者

町 長	野村 勇君	副 町 長	木瀬 誠君
教 育 長	関 篤君	秘書公室長	馬場 俊明君
総 務 部 長	生井 好雄君	町民くらしの部 長	古澤 朗紀君
保健福祉部長	野中 清昭君	産業建設部長	青木 謙君
教 育 部 長	小林 由実君	秘 書 課 長	市村 隆男君
まちづくり 推 進 課 長	斉藤 典弘君	総 務 課 長	鈴木 和美君
財 務 課 長	中川 貴志君	税 務 課 長	岩坂 信幸君
国保年金課長	諏訪 敦史君	福祉介護課長	粟野 直人君
こども家庭 課 長	生井 億之君	農 業 委 員 会 事 務 局 長	齊藤 武史君
産業振興課長	瀬崎 清一君	都市建設課長	倉持 浩幸君
上下水道課長	秋葉 通明君	会計管理者兼 会 計 課 長	鈴木 佳奈君

総務課補佐 石塚 浩二君
代表監査委員 斉藤 実君

財務課補佐 山中 昌之君

議会事務局の出席者

議会事務局長 飯岡 勝利 補 佐 菊 佐知子
主 幹 小竹 雅史

議長（上野政男君） 引き続きご参集くださいます、誠にありがとうございます。

ただいまの出席議員数は13名であります。よって、定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

（議長が了承を求めた議事日程は次のとおり）

議 事 日 程 （第2号）

令和6年9月19日（木）午前9時開議

- 日程第1 認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について
認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定について
（提案理由説明、担当部長概要説明、質疑、常任委員会付託）
- 日程第2 報告第3号 令和5年度八千代町健全化判断比率等の報告について
- 日程第3 請願上程（常任委員会付託）
- 日程第4 休会の件
-

議長（上野政男君） ここで脱衣を許可いたします。

- 日程第1 認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について
認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定について

議長（上野政男君） 日程第1、認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定について、以上2件を一括議題といたします。

朗読を省略して、提案理由の説明を求めます。

野村町長。

(町長 野村 勇君登壇)

町長(野村 勇君) おはようございます。ただいま一括上程されました認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について及び認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定についての提案理由をご説明申し上げます。

本案は、令和5年度八千代町一般会計歳入歳出決算のほか、特別会計及び水道事業の決算について、地方自治法第233条第2項の規定により、令和6年8月20日、監査委員による決算審査を受けましたので、同条第3項及び地方公営企業法第30条第4項の規定により、議会の認定に付するものでございます。

初めに、一般会計決算についてご説明申し上げます。令和5年度につきましては、経常経費を対前年度並みに抑制しながらも、第6次総合計画に基づく施策を執行するとともに、物価高騰により脅かされる町民の生活を守るため、地方創生臨時交付金などを活用し、物価高騰対策等に積極的に取り組みました。

以上のことから、歳入総額は111億9,107万5,633円、歳出総額は102億1,144万7,757円、歳入歳出差引額9億7,962万7,876円を令和6年度に繰越しいたします。

以上が一般会計決算の概要となります。

次に、国民健康保険特別会計決算についてご説明を申し上げます。国民健康保険の被保険者につきましては、後期高齢者医療制度への移行、また被用者保険の適用範囲の拡大などにより、年々減少しております。半面、医療の高度化、先端技術の導入等による国保事業納付金の増加が予想され、当町における国保の財政運営は依然として厳しい状況下にあります。このため、医療費の適正化や被保険者の健康増進を目指して、特定健康診査、特定保健指導等の健康づくり事業を積極的に推進しながら、適正かつ効率的な事業運営と財政基盤の安定化に努めてまいりました。

以上のことから、歳入総額は28億2,581万5,111円、歳出総額は27億3,343万2,047円、歳入歳出差引額9,238万3,064円を令和6年度に繰越しいたします。

以上が国民健康保険特別会計決算の概要でございます。

決算につきましては、令和6年9月3日に開催された八千代町国民健康保険運営協議会に諮り、ご了承をいただいていることを申し添えいたします。

次に、後期高齢者医療特別会計決算についてご説明申し上げます。令和5年度につき

ましては、年々増加する医療費の抑制及び被保険者用の健康管理のため、関係機関との業務連携を図り、健康診査事業を推進いたしました。また、要介護状態にならないよう健康な状態を保つことと、生活習慣病等の重症化予防に焦点を当てた高齢者の保健事業と介護予防の一体的な事業を実施いたしました。さらに、被保険者間の公平性を保つため、保険料の収納対策に取り組みました。

以上のことから、歳入総額は2億6,359万658円、歳出総額は2億5,677万8,089円、歳入歳出差引額681万2,569円を令和6年度に繰越いたします。

以上が後期高齢者医療特別会計決算の概要でございます。

次に、介護保険特別会計決算についてご説明申し上げます。本町の高齢化率は30%を超え、高齢者を取り巻く社会環境は厳しさを増しております。介護保険制度は、地域の高齢者を支える重要な制度として、増加する要介護認定者へより適切な介護福祉サービスの提供を行っております。

以上のことから、保険事業勘定の歳入総額は19億8,779万9,698円、歳出総額は18億7,210万361円、歳入歳出差引額1億1,569万9,337円を令和6年度に繰越いたします。

介護サービス事業勘定の歳入総額は543万9,123円、歳出総額は475万8,679円、歳入歳出差引額68万444円を令和6年度に繰越いたします。

以上が介護保険特別会計決算の概要でございます。

次に、中央土地区画整理事業特別会計決算についてご説明申し上げます。令和5年度の事業につきましては、第1工区において物件移転補償金算定業務1件、物件移転補償1件を実施し、第2工区においては物件移転補償2件を実施いたしました。

以上のことから、歳入総額は1億2,375万4,835円、歳出総額は9,017万3,258円、歳入歳出差引額3,358万1,577円を令和6年度に繰越いたします。

以上が中央土地区画整理事業特別会計決算の概要でございます。

次に、農業集落排水事業特別会計決算についてご説明申し上げます。令和5年度の供用を開始しております既存施設の維持管理業務を実施いたしました。

以上のことから、歳入総額は2億9,155万7,064円、歳出総額は2億7,480万2,225円、歳入歳出差引額1,675万4,839円を令和6年度に繰越いたします。

以上が農業集落排水事業特別会計決算の概要でございます。

次に、下水道事業特別会計決算についてご説明をいたします。令和5年度の事業につきましては、公共下水道事業において、伊勢山地区の3.49ヘクタールを整備し、八千代

中央地区、伊勢山地区、仁江戸地区の一部3.14ヘクタールにおいて供用を開始しております。

以上のことから、歳入総額は4億4,264万5,201円、歳出総額は4億771万4,996円、歳入歳出差引額3,493万205円を令和6年度に繰越いたします。

以上が下水道事業特別会計決算の概要でございます。

続きまして、認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の提案理由をご説明申し上げます。令和5年度の業務内容は、新規加入が106戸、年度末給水戸数は6,375戸でございます。また、年間有収水量は172万6,895万立方メートルで、対前年度比1.3%の増となっております。

以上のことから、3条予算の収益的収入は5億3,971万5,638円、支出は3億5,438万2,200円、損益計算書に示される純利益は1億6,852万4,969円となりました。

4条予算の資本的収入は1,000万4,000円、支出は1億9,565万4,167円、支出に対して不足する1億8,565万167円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,679万7,221円、減債積立金1,088万4,736円、建設改良積立金1億5,796万8,210円で補填いたしました。

以上が水道事業決算の概要でございます。

以上、令和5年度八千代町歳入歳出決算及び八千代町水道事業決算の概要を申し上げますが、各会計の詳細につきましてはこの後担当部長からご説明がございます。原案のとおり認定くださるようお願い申し上げます。説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長（上野政男君） ここで、決算及び健全化判断比率等の審査の結果について、監査委員から報告を求めます。

齊藤代表監査委員。

（代表監査委員 齊藤 実君登壇）

代表監査委員（齊藤 実君） ただいま議長からご指名がございましたので、ご報告申し上げます。

去る8月20日、町長より要請を受けまして、関係者の出席を求め、決算及び健全化判断比率等の審査を実施いたしました。

初めに、令和5年度八千代町歳入歳出決算の審査結果についてご報告申し上げます。令和5年度一般会計及び国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特

別会計、八千代中央土地区画整理事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、下水道事業特別会計、以上7件の決算並びに基金について、収支は諸規定に適合しており、正当であることを認めました。

次に、公営企業であります水道事業決算の審査結果についてご報告申し上げます。令和5年度水道事業決算について関係書類の審査をしたところ、収支は諸規定に適合しており、正当であることを認めました。

次に、健全化判断比率等の審査結果についてご報告申し上げます。令和5年度健全化判断比率等の審査について算定書類の審査をしたところ、諸規定に適合し、正当であり、全ての比率において健全段階にあることを認めました。

なお、意見書につきましては、決算審査資料に添付させていただいております。ご覧おきいただきたいと思っております。

以上をもちまして、決算審査の報告を終わります。

議長(上野政男君) これより各会計の決算概要について関係部長より説明を求めます。

初めに、一般会計の決算概要の説明を求めます。

生井総務部長。

(総務部長 生井好雄君登壇)

総務部長(生井好雄君) それでは、令和5年度一般会計歳入歳出決算の概要についてご説明を申し上げます。

歳入歳出決算書の6ページ、7ページをお開き願います。令和5年度一般会計歳入歳出款別総括表によりご説明を申し上げます。7ページの表の下、欄外にありますように、歳入決算額111億9,107万5,633円、歳出決算額102億1,144万7,757円で、翌年度に繰り越されます差引き残額は9億7,962万7,876円でございます。

次のページ、8ページ、9ページをお開き願います。こちらは、令和4年度から令和5年度へ繰越明許されたものでございます。右側9ページの歳出の部をご覧願います。繰り越された事務事業は、2款総務費で、戸籍システム改修業務委託料、7款土木費で地区計画策定支援業務委託料でございます。なお、これらの事業に係る収入済額、支出済額は、令和5年度決算に含まれているものでございます。

それでは初めに、歳入の概要についてご説明を申し上げます。10ページ、11ページをお開き願います。1款町税につきましては、調定額31億2,779万3,959円に対しまして、収入済額が30億2,849万8,876円でございます。収入済額を前年度と比較いたしますと、

5.6%、1億5,960万247円の増となっております。これにつきましては、固定資産税において償却資産等が増えたことによるものでございます。構成比は27.1%でございます。収入未済額は8,909万9,607円で、その左隣、不納欠損額につきましては1,091万2,542円となっております。こちらは、徹底した財産調査等を行った上で、今後も納付が見込めないもののみを法律に従いまして欠損処理をしたものでございます。収納率については96.8%でございます。

7款地方消費税交付金の収入済額は4億9,627万4,000円で、前年度と比較しまして0.97%、484万6,000円の減となっております。構成費は4.4%でございます。

11款地方交付税の収入済額は19億264万7,000円で、前年度と比較しまして3.0%、5,849万2,000円の減となっております。構成比は17.0%でございます。このうち普通交付税では、基準財政収入額が増えたことにより、前年度と比較しまして3.4%、6,311万円の減となっております。

12ページ、13ページをお開き願います。13款分担金及び負担金の収入済額は2,246万4,222円で、前年度と比較しまして1.7%、39万5,120円の減となっております。これは、教育・保育給付利用者負担金の減によるものでございます。収入未済額の29万9,000円につきましては、その教育・保育給付利用者負担金でございます。

15款国庫支出金の収入済額は12億9,841万563円で、前年度と比較しまして12.9%、1億9,267万5,349円の減となっております。これは主に住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金及び電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付補助金、こちらの皆減によるものでございます。構成比は11.6%でございます。

16款県支出金の収入済額は6億9,444万6,514円で、前年度と比較しまして2.5%、1,683万3,198円の増となっております。これは主に子どものための教育・保育給付費負担金及び障害者自立支援給付費負担金、こちらが増えたことによるものでございます。構成比は6.2%でございます。

18款寄附金の収入済額は22億9,184万2,571円で、一般寄附金とふるさと納税寄附金の合計額でございます。前年度と比較しまして142.3%、13億4,607万5,571円の大幅な増となっております。要因は、ふるさと納税寄附金の増額によるものでございます。構成比は20.5%でございます。

20款繰越金の収入済額は7億568万5,866円で、対前年度と比較しまして6.3%、4,706万1,941円の減となっております。構成比は6.3%でございます。

21款諸収入の収入済額は1億6,817万9,183円で、前年度と比較しまして9.0%、1,659万9,521円の減となっております。これは、国の地方創生臨時交付金を活用した給食費の無償化に伴う給食費個人負担金の減によるものでございます。構成比は1.5%でございます。収入未済額の20万3,240円につきましては、その給食費の個人負担金でございます。

14ページ、15ページをお開き願います。22款町債の収入済額は7,698万9,000円で、前年度と比較しまして57.6%、1億472万4,000円の減でございます。これは、国の財源不足解消による臨時財政対策債の大幅な減によるものでございます。構成比は0.7%でございます。

歳入の合計欄、調定額が112億9,087万2,956円、収入済額111億9,107万5,633円、不納欠損額1,091万2,542円、収入未済額8,960万1,847円でございます。

以上が歳入の概要でございます。

令和5年度の歳入の特徴といたしましては、固定資産税の伸びによる徴税の増収、またふるさと納税の積極的な事業推進により、寄附金が22億円を超え、地方交付税などの依存財源の大幅な減額を自主財源の大幅な増額で補うことができたことなどが挙げられます。

続きまして、一般会計の歳出の概要についてご説明を申し上げます。16ページ、17ページをお開き願います。1款議会費の支出済額は1億629万2,164円で、前年度と比較しまして9.9%、1,161万5,180円の減となっております。

2款総務費の支出済額は32億6,351万8,459円で、前年度と比較しまして12.7%、3億6,653万2,664円の増となっております。これは、寄附金の増に伴うふるさと納税推進事業費の増によるものでございます。翌年度繰越額1,193万5,000円は、住民基本台帳及び戸籍システム改修事業でございます。

3款民生費の支出済額は30億1,460万44円で、前年度と比較しまして5.6%、1億5,954万1,158円の増となっております。これは、障害者自立支援給付費及び電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付費の増によるものでございます。翌年度繰越額7,534万2,000円は、低所得者支援及び定額減税補足給付金給付事業でございます。

4款衛生費の支出済額は5億5,261万757円で、前年度と比較しまして2.7%、1,515万2,239円の減となっております。これは、新型コロナウイルスワクチン接種事業費の減によるものでございます。翌年度繰越額183万3,000円は、新型コロナウイルスワクチン接種体制事業でございます。

5 款農林業費の支出済額は 8 億 5,939 万 3,908 円で、前年度と比較しまして 29.8%、1 億 9,746 万 9,139 円の大幅な増となっております。これは、主力産品振興助成金及び農地耕作条件改善事業費の増によるものでございます。

6 款商工費の支出済額は 8,061 万 5,953 円で、前年度と比較しまして 69.8%、3,315 万 293 円の増となっております。これは、地域商社出資金の皆増によるものでございます。

7 款土木費の支出済額は 6 億 2,292 万 2,260 円で、前年度と比較しまして 9.9%、5,593 万 9,664 円の増となっております。これは、幹線道路補修工事請負費の増によるものでございます。

8 款消防費の支出済額は 3 億 4,415 万 7,908 円で、前年度と比較しまして 10.0%、3,830 万 5,473 円の減となっております。これは、防災無線操作卓更新事業の皆減によるものでございます。

9 款教育費の支出済額は 7 億 6,435 万 1,339 円で、前年度と比較しまして 5.2%、3,769 万 277 円の増となっております。これは、教育支援センターけやきの家の解体及び整地工事請負費及び新 1 年生スタートアップ事業交付金の増によるものでございます。

18 ページ、19 ページをお開き願います。11 款公債費の支出済額は 6 億 298 万 4,965 円で、前年度と比較しまして 2.6%、1,507 万 8,875 円の増となっております。これは、令和元年度借入れの給食センター施設更新事業債などの元金償還の開始によるものでございます。

歳出合計欄、支出済額は 102 億 1,144 万 7,757 円で、執行率は 92.0% でございます。

令和 5 年度の歳出の特徴といたしましては、22 億円を超えたふるさと納税寄附金に比例しまして、ふるさと納税推進事業費などのふるさと納税関連経費が大幅に増額したこと、またそれに伴いましてふるさと納税基金への積立金が大幅に増額したことなどが挙げられます。これらの事項別明細につきましては、歳入歳出決算書の 20 ページ以降に記載しておりますので、後ほどご覧おきいただきたいと思います。

続きまして、ページが大分飛びますが、162 ページをお開き願います。実質収支に関する調書でございます。歳入総額が 111 億 9,107 万 5,000 円、歳出総額が 102 億 1,144 万 8,000 円、歳入歳出差引額は 9 億 7,962 万 7,000 円でございます。翌年度へ繰り越すべき財源は 1,000 円でございますので、実質収支額は 9 億 7,962 万 6,000 円となっております。これは、歳出におきまして、ふるさと納税推進事業費による総務費で 4 億 7,980 万 9,000 円、低所得者支援及び定額減税補足給付金等による民生費において 1 億 5,393 万 6,000 円、主力産品振興助成金による農林業費で 1 億 8,669 万 1,000 円など、合わせて 8 億 8,000 万円ほどの

不用額が出ている状況でございます。歳出の不用額が大きくなった要因といたしましては、ふるさと納税返礼品の次年度対応、また低所得者支援及び定額減税補足給付金の繰越しなどによるものでございます。引き続き、歳入歳出ともに予算要求の精査について指導を徹底してまいりたいと考えておりますので、ご理解をくださいますようお願いを申し上げます。

以上が令和5年度一般会計歳入歳出決算の概要でございます。ご審議のほどよろしくお願ひ申し上げます。

議長（上野政男君） 次に、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計の決算概要の説明を求めます。

古澤町民くらしの部長。

（町民くらしの部長 古澤朗紀君登壇）

町民くらしの部長（古澤朗紀君） それでは、私からは、国民健康保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の概要についてご説明申し上げます。

初めに、国民健康保険特別会計についてご説明いたします。令和5年度の国保の加入状況につきましては、平均世帯数が3,712世帯で、前年度より54世帯の減少でした。平均被保険者数は6,297人で、前年度より287人の減少でございました。

それでは、決算の概要についてご説明申し上げます。決算書の164、165ページをお開き願います。まず、歳入歳出決算の総括でございますが、165ページの欄外をご覧ください。歳入決算額が28億2,581万5,111円、歳出決算額が27億3,343万2,047円となり、差引き残額は9,238万3,064円でございます。

170、171ページをお開き願います。令和5年度歳入決算事項別明細書になりますが、こちらの資料にて歳入からご説明いたします。1款国民健康保険税は、調定額が7億9,464万1,324円に対し、収入済額が6億8,017万6,667円で、これは当特別会計における収入全体の24.1%となります。また、昨年度と比較しまして3,922万6,531円、5.5%の減少でした。収入減の主な要因といたしましては、被保険者数が減少したことによるものです。収納率は、昨年度と比較し0.7%上昇し、87.7%でございます。不納欠損額につきましては1,960万1,360円、収入済額は9,514万500円でございます。

172、173ページをお開き願います。ページ中ほど、5款県支出金は、調定額、収入済額ともに17億4,580万9,292円でございます。県支出金は、当特別会計における収入全体の61.8%となります。

174、175ページをお開き願います。ページ最上段、7款繰入金は、調定額、収入額ともに3億3,908万9,949円で、当特別会計における収入全体の12.0%でした。内訳としたしましては、1款他会計繰入金として一般会計から繰り入れたもの、また2款基金繰入金として支払準備基金から繰り入れたものが、それぞれ1項の一般会計のほうから1億8,908万9,949円と2款基金のほうから1億5,000万円を繰り入れたいたしました。

8款繰越金は、調定額、収入額ともに5,451万6,281円でした。これは、令和4年度からの繰越金でございます。

9款諸収入は、延滞金や一般被保険者第三者納付金、特定健康診査負担金により577万2,546円の収入がございました。

180、181ページをお開き願います。令和5年度歳出決算事項別明細書になりますが、こちらの資料にて歳出の部をご説明いたします。以下、主な款項目ごとに説明をいたしますので、ページ上段にございます支出済額をご覧ください。1款総務費は4,217万118円で、主に職員5名分の人件費や通信運搬費、国保連合会への事務委託料、負担金などがございます。

182、183ページをお開き願います。ページ下ほどにございます2款保険給付費は16億8,729万6,497円で、これは当会計における支出全体の61.7%を占めるものであります。

186、187ページをお開き願います。3款国民健康保険事業費納付金は9億6,779万5,445円でございます。当会計における支出全体の35.4%を占めております。

188、189ページをお開き願います。ページ中ほど、5款保健事業費は3,161万9,087円でございます。

190、191ページをお開き願います。7款諸支出金は、過誤納還付金や県補助金の返還金、繰出金として455万900円を支出いたしました。

194ページをお開き願います。実質収支に関する調書ですが、歳入総額28億2,581万5,000円、歳出総額27億3,343万2,000円となり、歳入歳出差引額9,238万3,000円は、6年度へ繰越しいたします。翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額も同額となります。

続きまして、後期高齢者医療特別会計についてご説明いたします。初めに、加入状況でございますが、令和5年度の平均被保険者数は3,277人で、前年度から103人の増でございます。

決算書の196、197ページをお開き願います。歳入歳出決算款別総括でございますが、

197ページの欄外をご覧ください。歳入決算額が2億6,359万658円、歳出決算額が2億5,677万8,089円となり、差引き残額は681万2,569円でございます。

202、203ページをお開き願います。令和5年度歳入決算事項別明細書になりますが、こちらの資料にて歳入からご説明いたします。1款後期高齢者医療保険料は、調定額1億9,145万6,100円に対し、収入済額は1億8,867万7,681円で、収納率は98.55%でございます。後期高齢者医療保険料は、当特別会計における収入全体の71.58%を占めるものでございます。

不納欠損額につきましては44万400円、収入未済額は247万2,719円でございます。

以下、ページ上段にございます収入済額にてご説明させていただきます。ページ中段にございます4款繰入金は6,583万8,489円であり、事務費繰入金と保険基盤安定繰入金、人間ドック検診料繰入金でございます。

5款繰越金593万2,285円は、令和4年度からの繰越金でございます。

6款諸収入311万3,403円は、保険事業委託金によるものでございます。

206、207ページをお開き願います。令和5年度歳出決算事項別明細書になりますが、こちらの資料にて歳出の部をご説明いたします。以下、主な款項目ごとに説明いたしますので、ページ上段にございます支出済額の欄をご覧ください。1款総務費は1,249万2,052円でございます。職員1名分の人件費のほか、通信運搬費、健診業務委託料が主なものでございます。

2款後期高齢者医療広域連合納付金は2億4,412万7,737円でございます。当特別会計支出全体の95.1%を占めております。内訳は、保険料納付金と保険基盤安定納付金でございます。

続きまして、210ページをお開き願います。実質収支に関する調書になりますが、1番の歳入総額が2億6,359万円、歳出総額が2億5,677万8,000円、3番、歳入歳出差引額681万2,000円は、令和6年度へ繰り越させていただきます。翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額も同額となります。

以上が令和5年度国民健康保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計の決算概要の説明になります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

議長（上野政男君） 次に、介護保険特別会計の決算概要の説明を求めます。

野中保健福祉部長。

（保健福祉部長 野中清昭君登壇）

保健福祉部長（野中清昭君） それでは、介護保険特別会計歳入歳出決算の概要につきましてご説明を申し上げます。

初めに、令和5年度の第1号被保険者数と要介護認定者数について申し上げます。令和6年3月31日現在の65歳以上の第1号被保険者数は6,676人で、前年度よりも2名の減少でございます。要介護認定者数は958人で、前年度よりも28人増加しており、このうち第1号被保険者は941人、第2号被保険者が17人という状況でございます。

それでは、決算書の212、213ページをお開き願います。保険事業勘定歳入歳出決算の総括でございますが、213ページの欄外、右下の部分をご覧ください。歳入決算額19億8,779万9,698円、歳出決算額18億7,210万361円、差引き残額1億1,569万9,337円でございます。

218、219ページをお開き願います。初めに、歳入についてご説明をいたします。1款保険料の調定額4億3,073万2,590円に対しまして、収入済額は4億2,429万3,150円となり、収納率は98.51%でございます。前年度と比較いたしまして、440万8,070円、1.05%の増でございます。こちらは、収入全体の21.3%に当たります。不納欠損額につきましては224万2,250円、収入未済額は477万5,290円でございます。

3款国庫支出金は、3億6,456万3,820円で、介護給付費に対する国庫負担分が主なものでございます。収入全体の18.3%を占めております。

4款支払基金交付金は4億3,988万2,033円で、社会保険診療報酬支払基金より交付されるものでございます。収入全体の22.1%でございます。

5款県支出金は2億7,078万6,686円で、介護給付費に対します県の負担分と補助金でございます。収入全体の13.6%でございます。

7款繰入金の2億9,574万1,000円は、一般会計からの法定繰入金が主なものでございます。収入全体の14.9%でございます。

8款繰越金は1億9,133万2,328円で、令和4年度からの繰越金でございます。

9款諸収入は110万1,934円でございます。

続きまして、228、229ページをお開き願います。歳出について申し上げます。1款総務費は5,874万8,646円でございます。こちら職員5名分の人件費や介護認定審査会負担金等が主なものでございます。

2款保険給付費は16億2,278万45円で、支出全体の86.7%を占めております。前年度と比較いたしまして、4,820万5,510円、3.06%の増となっております。

4 款地域支援事業費は6,444万4,153円でございます。

6 款基金積立金は6,000万円で、こちらの積立てによりまして基金残高は3億5,872万円でございます。3億5,872万円が基金の残高となっております。

7 款諸支出金は6,612万7,517円でございます。

ページが飛びまして、248ページをお開き願います。実質収支に関する調書でございますが、歳入総額19億8,779万9,000円、歳出総額18億7,210万円となり、歳入歳出差引額1億1,569万9,000円は令和6年度へ繰越いたします。するものでございます。翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額も同額となります。

続きまして、サービス事業勘定についてご説明を申し上げます。250、251ページをお開き願います。歳入歳出決算の総括でございますが、251ページの欄外をご覧ください。歳入決算額543万9,123円、歳出決算額475万8,679円、差引き残額68万444円でございます。

256、257ページをお開き願います。初めに、歳入についてご説明をいたします。1 款サービス収入の479万6,731円は、介護予防サービス計画費収入でございます。前年度と比較いたしまして88万654円、22.5%の増でございます。

2 款繰越金は64万2,392円で、令和4年度からの繰越金でございます。

258、259ページをお開き願います。次に、歳出について申し上げます。1 款事業費411万6,679円は、介護予防サービス計画作成委託料でございます。前年度と比較いたしまして、84万2,104円、25.7%の増でございます。

2 款諸支出金の64万2,000円は、保険事業勘定への繰出金でございます。

260ページをお開き願います。実質収支に関する調書でございますが、歳入総額543万9,000円、歳出総額475万9,000円となり、歳入歳出差引額68万円は令和6年度へ繰越いたします。翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額も同額となります。

以上が介護保険特別会計の決算概要でございますが、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

議長（上野政男君） 次に、八千代中央土地区画整理事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、下水道事業特別会計及び水道事業会計の決算概要の説明を求めます。

青木産業建設部長。

（産業建設部長 青木 譲君登壇）

産業建設部長（青木 譲君） それでは、産業建設部関連、令和5年度4つの事業の歳

入歳出決算概要につきましてご説明申し上げます。

初めに、八千代中央土地地区画整理事業特別会計の決算概要につきましてご説明いたします。決算書の262ページ、263ページをお開きください。263ページの表の下、欄外にありますように、歳入決算額1億2,375万4,835円、歳出決算額9,017万3,258円、差引き残額3,358万1,577円となっています。

続きまして、歳入につきましてご説明いたします。264、265ページをご覧ください。1款事業収入の収入済額は3,970万7,688円で、対前年から3,933万1,688円の大幅増となっております。保留地処分金の増によるものでございます。

3款国庫支出金の収入済額は970万円で、対前年度比13.7%、116万5,000円の増となりました。これは、土地地区画整理費国庫補助金の増によるものです。物件移転補償費などに充ててございます。

5款繰入金の収入済額は5,625万3,000円で、対前年度比6.3%、380万2,000円の減となりました。これは、事業収入の増によるものでございます。

6款繰越金の収入済額は889万4,147円で、対前年度比23.5%、169万4,959円の増となりました。

8款町債の収入済額は920万円で、対前年度比21.1%、160万円の増となっております。これは、土地地区画整理事業債の増によるものです。1工区、2工区の物件移転補償費などに充ててございます。

以上が歳入の概要でございます。

続きまして、歳出につきましてご説明いたします。266、267ページをご覧ください。1款総務費の支出済額は1,876万5,692円で、対前年度比3%、55万2,419円の増となりました。人件費の増によるものでございます。

2款土地地区画整理費の支出済額は3,722万1,533円で、対前年度比68.4%、1,511万4,156円の増となりました。これは、物件移転補償費の増によるものでございます。

267ページの翌年度繰越額の欄をご覧ください。5,839万6,000円、こちらは国の補正予算による事業のため、令和5年度内に完成が見込めないということになりました。それにより繰り越すものでございます。

3款公債費につきましては、ほぼ横ばいの3,418万6,033円の支出となっております。

4款予備費につきましては、物件移転補償算定事業に105万6,000円充用しております。

以上が歳出の概要でございます。

次に、翌年度繰越額につきましてご説明いたします。ページ飛びまして、274ページ、実質収支に関する調書をお開きください。3、歳入歳出差引額3,358万1,000円から4の翌年度へ繰り越すべき財源2,250万円を差し引いた額、この実質収支額1,108万1,000円が令和6年度に繰越金として計上されることとなります。

以上が令和5年度八千代町中央土地区画整理事業特別会計歳入歳出の概要でございます。

続いてご説明いたします農業集落排水事業とその次の下水道事業につきましては、令和6年度から併せて下水道事業として公営企業会計が適用されたことによりまして、今回の令和5年度決算については3月末での打切り決算を行っておりますので、ご承知おきをお願いいたします。

それでは、農業集落排水事業特別会計の決算概要につきましてご説明いたします。決算書の276、277ページをお開きください。右側277ページの表の下、欄外にありますように、歳入決算額2億9,155万7,064円、歳出決算額2億7,480万2,225円、差引き残額1,675万4,839円となっております。

続きまして、歳入につきましてご説明いたします。278、279ページをお開きください。

1款分担金及び負担金80万円、新規加入者の分担金でございます。

2款使用料及び手数料7,137万6,690円、対前年度比1.3%、91万1,677円の減、処理施設の使用料で、打切り決算によりまして減額となっております。

3款国庫支出金、4款県支出金は、ゼロ円でございます。

5款財産収入4,100円、基金等の利子でございます。

6款繰入金1億7,192万9,000円、対前年度比0.4%、69万2,000円の減となっております。一般会計及び基金からの繰入金でございます。

7款繰越金373万4,274円、対前年度比34.6%、197万4,613円の減、前年度からの繰越金になります。

8款諸収入201万3,000円、対前年度比195万円の増、こちらは罹災した中継ポンプの災害共済金となっております。

9款町債4,170万円、対前年度比15.2%、550万円の増、こちらは資本費平準化債及び公営企業会計適用債でございます。

歳入歳出全体に占める割合では、6款の繰入金が59%、うち一般会計からの繰入金15.5%と、歳入全体のほぼ半分となっております。

以上が歳入の概要でございます。

続いて、歳出につきましてご説明いたします。280、281ページをお開きください。1 款農業集落排水事業費 1 億727万9,807円、1 項農業集落排水事業管理費、こちらは支出済額9,211万5,291円、対前年度比11%、1,135万1,588円の減となります。打切り決算によるものでございます。

2 項の農業集落排水事業費では、支出済額1,516万4,516円、対前年度比31.4%、692万7,142円の減となりました。工事請負費の施設改修等の減によるものでございます。

2 款公債費でございますが、支出済額 1 億6,752万2,418円、対前年度比0.8%、132万8,661円の増となります。内訳は、長期債の元金とその利子でございます。

3 款予備費につきましては、充用はございませんでした。

歳出の構成比を見ますと、公債費が61%を占めております。歳入の一般会計からの繰入金は大部分が公債費に充てているというような状況でございます。

次に、翌年度繰越額につきましてご説明いたします。ページ飛びまして、292ページをお開きください。実質収支に関する調書でございます。3 の歳入歳出差引額1,675万4,000円、4、翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額はそのまま1,675万4,000円となりまして、令和6年度に繰越金として計上されることとなります。

以上、令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の概要でございます。

続きまして、下水道事業特別会計決算概要についてご説明いたします。歳入歳出決算書の294、295ページをお開きください。右側の表の下、欄外にありますように、歳入決算額4億4,264万5,201円、歳出決算額4億771万4,996円、差引き残額3,493万205円となっています。

次に、296、297ページをご覧ください。こちらは、令和4年度から令和5年度に繰越明許されたものでございます。右側297ページの表の下、欄外にありますように、歳入決算額5,838万5,000円、歳出決算額5,452万2,000円、差引き残額386万3,000円となりました。こちらは、公共下水道の工事によるものと鬼怒小貝流域下水道の建設負担金に係る繰越しで、収入済額、支出済額は令和5年度の決算に含まれております。また、差引き残金の386万3,000円は、鬼怒小貝流域下水道建設負担金に係る事故繰越分になります。

続きまして、歳入につきましてご説明いたします。298、299ページをご覧ください。1 款分担金及び負担金1,090万8,960円、対前年度比24.1%、346万3,070円の減、2 款使用料及び手数料3,878万2,677円、対前年度比2.7%、105万8,630円の減となっております。

す。1款、2款ともに打切り決算による減額となっております。

3款国庫支出金3,410万円、対前年度比23.4%、1,040万円の減、予算現額との差額3,520万円については、事業費の繰越明許によるものでございます。

2つ飛びまして、6款繰入金2億2,282万4,000円、対前年度比4.1%、885万9,000円の増、これは一般会計からの繰入金でございます。

7款繰越金1,564万2,062円、対前年度比2.1%、31万5,375円の増、前年度からの繰越金でございます。

8款諸収入278万6,412円、こちらは消費税の還付金です。

9款町債1億1,750万円、対前年度比8.6%、1,100万円の減、こちらは下水道事業債でございます。

歳入全体に占める割合では、6款繰入金50.3%、9款町債26.5%と、一般会計からの繰入金と借入金で76.9%、歳入全体のおよそ4分の3を占めているというような状況でございます。

以上が歳入の概要でございます。

続きまして、歳出につきましてご説明いたします。300、301ページをご覧ください。

1款下水道事業費1億9,693万6,428円、対前年度比18.1%、4,343万3,269円の減となります。これは、職員の減少による人件費の減、鬼怒小貝流域下水道建設負担金の減、それから3月末での打切り決算によるもののほか、委託料、工事費、鬼怒小貝流域下水道建設負担金の翌年度への繰越明許費によるものでございます。

2款公債費、支出済額2億1,077万8,568円、対前年度比3.3%、680万9,916円の増となりました。長期債の元金及び利子でございます。

3款予備費の充用はございませんでした。

歳出の構成比を見ますと、公債費が歳出全体の51.7%と約半分を占めております。歳入のうちの一般会計繰入金は、大部分が公債費に充てられているという状況でございます。

次に、翌年度繰越額につきましてご説明いたします。ページ飛びまして、312ページの実質収支に関する調書をご覧ください。3の歳入歳出差引額3,493万円から4、翌年度へ繰り越すべき財源の(2)、繰越明許費繰越額1,122万2,000円、(3)の事故繰越繰越額386万3,000円を差し引いた後の実質収支額は1,984万5,000円となります。令和6年度に繰越金として計上されることとなります。

以上、令和5年度下水道事業特別会計歳入歳出決算の概要でございます。

続きまして、令和5年度水道事業会計の概要についてご説明いたします。別冊となっておりますA4横のつづり、令和5年度八千代町水道事業決算書をご覧ください。

表紙から4枚目になります、水道事業決算報告書の1ページをお開きください。初めに、(1)、収益的収入及び支出についてご説明いたします。まず、収入につきましては、第1款水道事業収益は5億3,971万5,638円で、対前年度比12.5%、5,990万8,875円の増となっております。内訳は、第1項営業収益が5億1,211万8,229円、対前年度比10%、4,654万9,666円の増となっております。収益の内訳といたしましては、水道料金、量水器使用料、加入金、他会計負担金などとなっております。

第2項営業収益は2,759万7,409円、対前年度比93.9%、1,336万7,909円の増となっております。内訳といたしましては、預金利息、長期前受金戻入、雑収益でございます。また、前年度に購入しました債券利息が増収となっております。

第3項の特別収益はゼロ円で、前年と同様となっております。

2ページをお開き願います。支出についてご説明いたします。第1款水道事業費用は、3億5,438万2,200円、対前年度比11.4%、3,628万3,982円の増になります。内訳といたしましては、第1項営業費用が3億4,430万9,324円、対前年度比9%、2,852万6,124円の増となっています。これは、県水受水費、動力費、修繕費、各種委託料、人件費及び負担金、減価償却費などでございます。

第2項営業外費用は1,007万2,876円、前年と比較しまして775万7,858円の増になります。費用の内訳は、企業債の利息と消費税でございます。

第3項特別損失はゼロ円で、昨年と同様でございます。

第4項予備費は、第1款営業費用に34万8,808円を充用いたしました。こちらは、能登半島地震の災害対策の派遣の際の費用でございます。

次に、資本的収入及び支出についてご説明いたします。3ページをお開きください。収入につきましては、第1款資本的収入は1,000万4,000円、対前年度比22.2%、182万円の増となります。第1項国庫補助金で、配水池耐震化工事の補助金でございます。

続いて、支出につきましてご説明いたします。4ページをお開きください。第1款資本的支出は1億9,565万4,167円で、対前年度比72.4%、5億1,442万3,085円の減となっております。

その内訳は、第1項の建設改良費が1億8,476万9,431円で、対前年度比7.3%、1,465万

4,827円の減となっております。内容の主なものとしましては、11ページに記載の建設改良工事の概況となりますので、後ほどご覧おきお願いいたします。

第2項企業債償還金は1,088万3,736円で、対前年度比2.2%、23万1,742円の減となっております。これは、10件分の企業債償還金の元金でございます。

第3項投資有価証券はゼロ円で、昨年度からは皆減になります。これが建設改良費の減の主なものでございます。

第4項、予備費の充用はございませんでした。

下段をご覧ください。資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額1億8,565万167円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,679万7,221円と減債積立金1,088万4,736円及び建設改良積立金1億5,796万8,210円で補填をいたしました。

続いて、財務諸表となります。5ページの令和5年度八千代町水道事業損益計算書、こちらをご覧ください。この計算書は、消費税を含まない額で計算しております。先ほどご説明しました決算報告書の額とは一致しませんので、ご了承をお願いいたします。右側になりますが、下から6段目の経常利益、下から4段目の当年度純利益につきましては1億6,852万4,969円でございます。黒字となります剰余金につきましては、昨日に議決をいただきまして、建設改良積立金に積立てをいたします。

以上、令和5年度下水道事業特別会計歳入歳出決算の概要でございます。

以上が産業建設部関係、4つの事業の令和5年度決算の概要でございます。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

議長（上野政男君） 以上で関係部長の説明を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。

(午前10時19分)

議長（上野政男君） 休憩前に戻り、会議を再開いたします。

(午前10時31分)

議長（上野政男君） これから質疑を行います。

なお、本案は関係する常任委員会に付託する予定でありますので、質疑は要点のみ簡潔をお願いいたします。

質疑ありませんか。

5番、谷中理矩議員。

5番（谷中理矩君） 質問させていただきます。

決算書の67ページをご確認ください。2款1項13目諸費の償還金、利子及び割引料のところに国県補助金返還金とあると思います。こちら金額が1億4,000万円ほどですか、結構大きい額になるのですけれども、小さい額が積み重なってこういった額になるかもしれないのですけれども、もし大きな返還金等あれば、額の大きい順に3つほど答えていただけたらと思います。

もう一つが次のページ、69ページの同じく償還金のところなのですが、町税過誤納還付金324万円とあります。こちら多く払い過ぎてしまったのを返しているのか、誤って納めてしまったのを還付しているのか。実際この額がどうしても生じてしまうもののだとは思うのですけれども、どのような仕組みでこちらが生じるかちょっと教えていただきたいです。お願いします。

議長（上野政男君） 生井総務部長。

（総務部長 生井好雄君登壇）

総務部長（生井好雄君） 議席番号5番、谷中議員のご質疑にお答えをさせていただきます。

13目諸費の中で償還金、利子及び割引料、こちらの金額の中の主なものといたしましては子育て世帯等臨時特別支援事業費、こちらの返還金という形で9,098万3,552円、こちらが大きなものになります。それと、新型コロナワクチン接種対策費負担金、こちらで4,255万9,323円、こちらが主なもので、件数としましては国県補助金を合わせて18件分、18件あるものの積み重ねでその中の大きな2つが今申し上げた形になります。そのほか細かい、金額的には小さいのですが、件数全部としては18件、このような形でございます。よろしく願いいたします。

議長（上野政男君） 古澤町民くらしの部長。

（町民くらしの部長 古澤朗紀君登壇）

町民くらしの部長（古澤朗紀君） 私からは、22節の償還金、利子及び割引料について説明いたします。

支出額324万823円で、全て町税過誤納還付金になります。納付者が町税として納め過ぎてしまった分を返還したものでございます。

以上、答弁とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（上野政男君） ほかにありませんか。

2番、赤塚千夏議員。

2番（赤塚千夏君） 令和5年度の予算審議の際、まだ議員ではございませんでしたので、たくさん聞きたいことがあって大変恐縮なのですが、認定第1号の歳入歳出決算と水道事業の認定について、合わせまして8点ほど一括で質問させていただきたいと思います。

まず、1点目なのですが、80ページ、3款1項2目老人福祉費の12節委託料についてです。令和4年度決算には軽度生活援助事業に11万円ほどが計上されておりましたけれども、今回令和5年度には事業そのものの記載がありません。この軽度生活援助事業というのは、自治体によって内容異なると思うのですが、一人暮らしの高齢者のみの世帯に、家の周りの草取りですとか屋内の整理整頓などに対して1時間100円程度で利用できるというサービスです。令和4年度はどんな事業がされていたのか。令和5年度は、何かそれに代わる事業が行われていたのか、それをお聞きしたいと思います。

次、2点目は、同じページの19節扶助費の中の緊急通報装置設置事業についてです。これは、一人暮らしの高齢者が病気や災害などの緊急時にボタンを押すだけで通報できるというすばらしい事業だと思います。令和4年度決算の32万円から61万円へと増額しております、設置家庭が増えていることを評価いたします。この事業は65歳以上の一人暮らしの方が対象となっておりますが、本町には対象者が何人いて、そのうちの何世帯に設置されているのか教えてください。

3点目は、92ページです。92ページの4款1項2目予防費の12節委託料です。それほど大きくはないのですが、200万円ほど昨年比で増額となっております。これは単に物価高の影響で経費が上がってしまったことによるのか、それとも少しは健診を受ける方が増えていることによるものなのかお聞きしたいと思います。令和4年度と令和5年度分で結構ですので、健診の受診者数について教えてください。

4点目は、国民健康保険特別会計についてです。ページで言うと170ページになります。その1款1項国民健康保険税の滞納繰越分の収納のうち、財産差押えによるものの割合がお分かりでしたらお示してください。

5点目は、後期高齢者医療特別会計です。202ページの1款1項、一番上の段になります。後期高齢者医療保険料の不納欠損額が対前年比で12万7,500円増えています。わずかな差ではありますが、これは払えない人が増えたということでしょうか。それとも、被

保険者が増えたことによって不納欠損額も総体的に増えたという理解でよろしいでしょうか。お聞かせください。

6点目、介護保険特別会計についてです。様々な自治体で災害や生活困窮などにより保険料を納付することが困難となった場合、申請によって保険料の減免や徴収を猶予する制度が創設されています。決算書を見ても私には分からなかったのですけれども、本町ではそうした保険料の減免制度はあるのでしょうか。あれば、その減免を受けられる要件、それと3年分の実績を教えてください。

続きまして、認定第2号 八千代町水道事業決算について2点質問させていただきます。1点目は、16ページの3の業務というところです。ここの下から5段目、無効水量というところが前年度の6万2,446立米から10万7,141立米へと増加しておりますが、これは施設の損傷や給水管からの漏水があったということでしょうか。原因がお分かりでしたら教えてください。

最後の質問です。19ページの契約についてになるのですけれども、2段目のPFOS・PFOA水質検査業務委託についてです。これまでPFOSとPFOAの水質検査の実施は水道事業者に任されておりましたが、令和6年度環境省は、水道水におけるPFOS及びPFOAの全国調査を行うとして、5月29日に国土交通省と共同で事務連絡を发出しています。9月末までに取りまとめて報告するよう求めておりますけれども、本町の進捗状況をお聞かせください。

以上、たくさんで申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

議長（上野政男君） 野中保健福祉部長。

（保健福祉部長 野中清昭君登壇）

保健福祉部長（野中清昭君） 2番、赤塚千夏議員の質疑にお答えをいたします。

私のほうからは、ご質問の1点目の老人福祉費の委託料、軽度生活援助事業の内容と、それに代わる事業はあるのかという点についてまずは答弁させていただきます。こちらの事業の内容といたしましては、65歳以上の単身世帯、お一人暮らし、それと高齢者のみの世帯の方で介護保険制度の認定を受けていない方に対しまして、ホームヘルパーが訪問し、日常生活上の簡単なお手伝いをすると。調理や掃除、ごみ出し、そういったものを支援するというふうな事業になっております。こちらについては令和4年度で事業を廃止いたしまして、理由といたしましては、社会福祉協議会のほうにこの事業を委託しておりましたけれども、事業所を維持するだけのヘルパー等の確保が社会福祉協議会

のほうで難しくなってきたということと、令和4年度の利用実人員がお二人のみの利用だったということがございまして、令和4年度で事業を廃止し、また民間のヘルパー事業所が町内に令和5年度あたりにできてきましたので、そういった理由で令和5年度からはこの事業がなくなったという経過でございます。

続きまして、同じ老人福祉費の中の扶助費で2点目のご質問ですけれども、緊急通報装置の設置につきまして、令和4年度が32万2,740円、令和5年度は61万4,240円と増えているのですが、こちらの違いはということでございますけれども、令和4年度は5台を設置したということになります。令和5年度は8台を設置したということで、設置台数が増えているために金額が増額しているということになります。

こちらの対象者は何人いるのかということですが、65歳以上の一人暮らしの方で希望する方が設置をするというふうな流れになっておりますので、一人暮らし台帳に登録されている人数は令和5年度が299人、その中で60名の方が緊急通報装置を設置しているという状況でございます。

3つ目のご質問の衛生費の中の予防費、92ページ部分の予防費の中で委託料、こちらの増額について、健診の受診者が増えたからなのか、単価が増えたからなのかという点でございますけれども、こちら令和4年度に比べまして委託料全体で180万円弱の金額が令和5年度は増額になっておりますが、この増額の要因といたしましては、備考欄にあります各種検査の委託料ではなく一番下の段にある予防接種委託料の増額により増えたものです。予防接種の増額の要因でございますけれども、令和4年度より子宮頸がんワクチン、こちらのほうが定期接種が再開されました、令和4年度はワクチンの種類が2価、4価というワクチンを使用し、接種者が271名おったのですけれども、令和5年度になりましてワクチンの種類が9価ワクチン、9価というのは株が9種類入っていてより効果が得られるというものなのですが、9価ワクチンが出てきて接種者も388人、117人の増となりました。また、ワクチンの単価が、2価、4価のワクチンが1回1万6,700円に対しまして9価のワクチンは2万7,000円ということで1万円以上高額になるということがございまして、その接種者の人数増とワクチン単価の増によりまして、予防費の中の委託料が増額したというようなことでございます。

それと、最後の介護保険関係のご質問なのですが、介護保険料の減免の制度はあるかという点と3年分の実績ということでございますけれども、八千代町の介護保険条例の中でも第11条で、震災、風水害、あるいは心身に重大な障害を受けたといった場合や事

業の廃止等によりまして、前年度に比較して収入が大きく減少した場合には減免となるというふうな制度がございます。しかしながら、過去3年間におきまして、こちらの減免の申請、あるいは減免したという実績はございませんでした。

以上、私への質問4点につきまして答弁とさせていただきます。

議長（上野政男君） 古澤町民くらしの部長。

（町民くらしの部長 古澤朗紀君登壇）

町民くらしの部長（古澤朗紀君） 議席番号2番、赤塚千夏議員からの質問にお答えします。

私のほうからは、国保税の差押えと滞納処分による収入額が、全ての収入額に対する割合はどのくらいなのかというような質問にまずお答えさせていただきます。令和5年度滞納繰越分の収入済額総額で2,657万8,902円になります。そのうち差押えと滞納処分をして税金に充てた分が157万6,727円で、割合にすると5.9%ほどになるかと思っておりますので、その点を1点お答えいたします。

続きまして、後期高齢者医療特別会計のほうで保険料の不納欠損額の増加の理由ということなのですが、まず不納欠損につきましては、徹底した調査の上、今後も納付の見込みがないものを法律に従い欠損処分をするものでございます。後期高齢者医療被保険者は年々増加しております。被保険者の増加に伴い、保険料の調定額も上昇しております。調定額の上昇に比例して、収入未済額及び今後も納付の見込めない保険料の額も増加したものと考えております。

以上、お答えとさせていただきます。よろしく申し上げます。

議長（上野政男君） 青木産業建設部長。

（産業建設部長 青木 譲君登壇）

産業建設部長（青木 譲君） 私のほうからは、水道関係の無効水量が増えたことはどのような理由かということと、決算書19ページのPFOS及びPFOA水質検査業務委託、その結果どうだったのかというようなことかと思っておりますので、2点についてお答えいたします。

まず、1点目ですが、決算書16ページの無効水量が増えている理由はどうしてかというようなことかと思っておりますが、無効水量ですが、浄水場で作って配った水のうち、メーター器を通った水が有効水量、計算できる水量で、そのうちの有収水量が料金をもらった水量。無効水量、こちらが、メーター器で測ったけれども料金をいただかなかった、

減免だったりなんだりというような水量となっています。その残り、無効水量というのが不明な水ということですので、出た水とメーター器で測った水の差、どこいったか分からないような水というようなことになるかと思えます。

その量が増えているというような理由ですが、昨年度実施しました配水池の耐震化工事、こちらでメーター器を通さない水を大量に使用したというようなことが主な要因と考えているところです。また、配水本管からの漏水、こちらも2件ほどございました。また、水道管の濁りの防止などに対応するために、水道本管の末端などから排泥作業ということで水を抜いて入れ替えたりする作業を定期的に行っているのですが、昨年度については常時水を出すというような作業を行ったということがあることなどが要因と考えているところでございます。

1点目については以上でございます。

2点目、決算書19ページのPFOS・PFOA水質検査業務委託、こちらの結果についてどうかということですが、PFOS、PFOAというものですが、有機フッ素化合物でいずれは工業などに使われていたということで、現在はつくられてはいないということなのですが、自然界の中で分解されにくいというような性質があるということで、環境に残りやすいというようなことから人体にも影響があるのではないかとということで調査が行われているというところかと思えます。その段階で、昨年9月に浄水場から水を取りまして検査を実施しました。結果は、PFOS、PFOA合わせて検査機器の検出限界値、こちら未満ということですので検出できなかったというようなことになってございます。参考に、環境省のほうで出しています暫定の基準値というのがありまして、それが50ナノグラムということになっていますが、それ以下の検出できなかったというようなことになっております。また、今年度も昨年度と同じように9月中、今月中に検査、水を取って出したいということで進めております。

以上でございます。よろしく願いいたします。

議長（上野政男君） ほかにありませんか。

4番、吉田安夫議員。

4番（吉田安夫君） やらないと思ったのですけれども、青木産業建設部長にお伺いします。

今、無効水量の話出たのですが、当初の泥剥ぎの箇所よりも増えているのか増えていないのか。それから、管の布設替えしたときに、今言ったように、泥剥ぎ弁全部、汚泥

の弁を上げますけれども、例えば1キロ管布設替えしたらどのぐらい泥剥ぎするのか、そういうのって分かりますか。

あともう一つは、消防分団なんか各貯水槽に補充しますよね。あれは今言った料金のどっちへ入っているか、その点だけちょっと教えていただきたいのですが。

議長（上野政男君） 青木産業建設部長。

（産業建設部長 青木 譲君登壇）

産業建設部長（青木 譲君） 吉田議員の質疑にお答えいたします。

まず、泥剥ぎ弁、排泥弁というのですかね、そちらが増えているのかというようなことを言っているのかと思いますが、現在、水道管を新規で布設するということをはほとんどやっていませんので、排泥弁が増えているというようなことはほとんどないというような状況でございます。また、水道管を布設したときに、例えば1キロ布設替えすればどのくらい水を出すのかということかと思いますが、状況によりますけれども、排泥のところから濁った水が出てくることになるかと思いますが、布設替えすると。その水がきれいになるまで抜くというようなこととなりますので、量的には計算できないような状況になっています。

あと、貯水槽を入れる部分には、水はどこに含まれるのかということになるかと思いますが、そちら配った水の中でメーター器で測れていないという部分になりますので、無効水量の中に含まれる。同じように、火災の際に消火栓から水を出して消火に当たった水の量なんかも無効水量のほうに入ってくるかと思いますが。

以上でございます。よろしく願いいたします。

議長（上野政男君） 14番、大久保敏夫議員。

14番（大久保敏夫君） 私のほうからは300ページと301ページ、お願いできますか。下水道関係のほうなのですが、不用額の中で職員が1人おやめになったと。そういうことがこの数字の中に、不用額が相当な数ある中で、不用額として1,066万6,572円含めた中で、そのほかに翌年の繰越金も1億円あるわけですが、職員が1人おやめになったということとこの数字の流れというものは、4月1日から来たのが途中でやめたので、こういうことの数字があったのか、その辺のちょっと関連のところ数字持ち合わせていれば、ざっくなどころでいいですから、議長お願いします。

議長（上野政男君） 青木産業建設部長。

（産業建設部長 青木 譲君登壇）

産業建設部長（青木 譲君） 14番、大久保敏夫議員の質疑にお答えいたします。

先ほどの職員がおやめになった話かと思いますが、やめたというわけではなくて人事異動で1名減になったということの件費の減になってございます。そのほか減の要因としましては、歳出については、企業会計に切り替わるために3月31日で会計をばっさり切っているというようなことで、4月1日から5月31日まで、普通会計の場合は出納整理期間があるかと思うのですが、その期間の分の歳入歳出が今回の決算では含まれなかったというようなこともありまして、歳出できなかったものについては企業会計のほうの歳出になる。歳入で入ってこなかったものについては、次の企業会計での歳入になるというようなことがありまして、決算のほうでは例年と残額などについても変わったような形になってございます。

以上です。

議長（上野政男君） 14番、大久保敏夫議員。

14番（大久保敏夫君） ということは、今の人的な動きの中で、新たに補充をしなかったという解釈でいいのですか。仕事が楽になってしまったので要らなくなってしまったという話なのか、その辺のところちょっと教えてください。

議長（上野政男君） 青木産業建設部長。

（産業建設部長 青木 譲君登壇）

産業建設部長（青木 譲君） 人員は純然たる1名減ということなのですが、人事のことになりますので、私のほうからはお答えどうなのかなと思うところがあるのですが。

議長（上野政男君） 生井総務部長。

（総務部長 生井好雄君登壇）

総務部長（生井好雄君） ただいまの大久保議員のご質疑にお答えをさせていただきます。

令和4年度から令和5年度にかけての中で、課全体としての正職員の数が1人減ったということで件費全体が下水道事業の特別会計の中で総額が減っているという認識で、職員の配置につきましては、それぞれいろんな部署があります中で全体の計画は進めているところでございますので、その中で、例えば正職員の数が減ったという中で会計年度任用職員ですとか、あるいは再任用の方、そういったところでフルタイムではない方などで仕事の補充をしながら計画的に進めていくという状況でございます。

以上、答弁とさせていただきます。

（「1,000万弱の銭はこの件には関係ない。不用額」と呼ぶ者あり）

総務部長（生井好雄君） 1,000万円の不用額が出ている部分に関しましては、先ほど青木産業建設部長のほうからあったように、今回会計の仕組みが切り替わるということで、3月末で一旦収入支出を切っている。そのような状況で不用額が、4月、5月に今までだったら支払っているものが、3月で切ったので、その分不用額が発生しているという、そういう認識でございます。

（「人的なことは関係ないということだな」と呼ぶ者あり）

総務部長（生井好雄君） ええ。直接人件費が関係しているという部分ではございません。

議長（上野政男君） 7番、増田光利議員。

7番（増田光利君） 一般会計のうちの53ページ、12節委託料のうち、職員成人病検診委託料103万8,807円になっていますよね。この中で、職員の疾患、それについては疾患率というのは把握しているのかどうかという、何%ぐらいなのかということと、病名とかということとちょっと問題があると思いますけれども、疾患率がどのぐらいあるのかということと、疾患が見つかった場合、きちんと病院に行くように再診を勧めるということを指導しているのかどうか、この2点についてお伺いします。

議長（上野政男君） 生井総務部長。

（総務部長 生井好雄君登壇）

総務部長（生井好雄君） 増田議員のご質疑にお答えをさせていただきます。

成人病検診、職員に向けての検診を実施して、実際にその結果についてはあくまでも個人にそれぞれ行くものでございまして、どのような病気にかかっているかとかというそこまでは、人事担当のほうで細かい部分までは把握はしていないのが現状でございます。あくまでも結果が個人に行って、ただそれに対して細かい部分、病気の有無まで把握はしておりませんが、ただその結果を受けて医者を受診する必要がある方については、そういった結果が出ているのであれば受診をするように改めて通知はしてございます。そのほかの受けたかどうかということところまでも、一旦アンケート的なものは取ってはおりますが、あくまでも受ける受けないは個人の判断になってきますので、その診断の結果を見て判断していただくという、そういったことでお願いをしている状況でございます。

議長（上野政男君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議長（上野政男君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定について、お手元に配付の付託事項明細書のとおり各常任委員会に分割をして付託したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（上野政男君） 異議なしと認めます。

よって、認定第1号 令和5年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 令和5年度八千代町水道事業決算の認定については、付託事項明細書のとおり各常任委員会に分割して付託することに決定をいたしました。

日程第2 報告第3号 令和5年度八千代町健全化判断比率等の報告について

議長（上野政男君） 日程第2、報告第3号 令和5年度八千代町健全化判断比率等の報告について提出されておりますので、ご覧おき願います。

日程第3 請願上程（常任委員会付託）

議長（上野政男君） 日程第3、本日までには受理した請願は、お手元に配付いたしました請願・陳情文書表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたしましたので、ご報告をいたします。

日程第4 休会の件

議長（上野政男君） 日程第4、休会の件を議題といたします。

お諮りいたします。議事の都合により、明日20日より24日までは休会としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（上野政男君） 異議なしと認めます。

よって、明日20日より24日までは休会とすることに決定いたしました。

議長（上野政男君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

次会は、25日午前9時より本会議を開きます。
本日はこれにて散会をいたします。

(午前11時12分)